

7月25日正午必着

明石春浦先生書



せきようていはんやまのこし
夕陽亭畔山如畫 (溫庭筠)

夕陽を帯びた山は全く畫のようである

明石幸子書



山寺の花はのこりて鐘の音今日もくれぬと人ぞちりゆく (契沖)

菅井松雲先生書



臥聞疎響梧桐雨 獨詠微涼殿閣風 (蘇軾)

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

遊魚動緑荷 (陸游)

遊魚緑荷を動かす

魚が池中に戯れ浮草を揺がす。

獨坐幽篁裏 彈琴復長嘯
深林人不知 明月來相照

(王維)

獨り幽篁の裏に坐し 琴を弾じ復た長嘯す
深林人知らず 明月来たりて相照らす

誰もたずねて来ない竹やぶの奥の離れで、気ままに爪びいたり歌ったりするのは楽しい。相手になってくれるのはお月さまで。

送王録事赴虢州 (岑参)

王録事が虢州に赴くを送る 岑参

早歲即相知 嗟君最後時
青雲仍未達 黑髮欲成絲
小店關門樹 長河華嶽祠
弘農民吏待 莫遣馬行遲

早歲即ち相知る 嗟す 君が最も時に後るることを
青雲 仍おもた達せず 黒髮 糸を成さんと欲す
小店 関門の樹 長河 華嶽の祠
弘農の民吏待たん 馬行をして遅からしむること莫かれ

夏に入る 青草山のふもとよりけぶりのぼれりよき朝げかな

(尾上柴舟)

半紙部規定課題A

7月25日正午必着

高初
林日
照

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

7月25日正午必着

行書

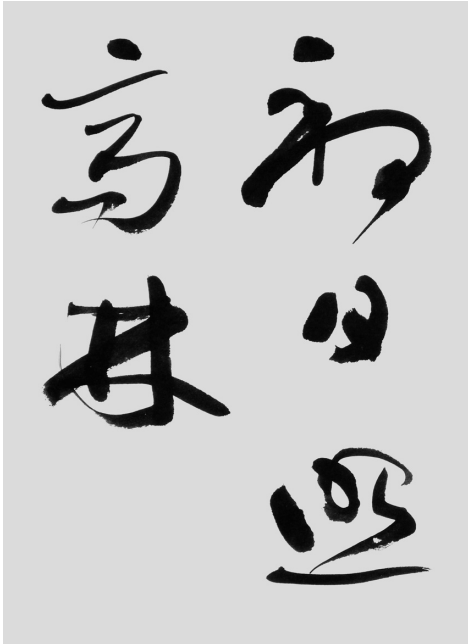


隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



すがすがしい晨、年古りた寺に入って行くと、おりしもさしのぼる朝日の光が、空高く茂る林の梢を照らす。曲りくねった径はしずかにおくまった処に通じ、僧房のあたりに、花咲く木々が深く茂っている。山中の風光は、鳥の本来の性を満足させ、潭に映ずる影は、人の心の雑念を拭い去ってくれ、すべての物音が、いまやここにすべてひっそりとしずまり、ただ寺でうちならす鐘と磬の音だけがきこえてくる。

題「破山寺後院」 常建

清晨入古寺

初日照高林

曲徑通幽處

禪房花木深

山光悅鳥性

潭影空人心

萬籟此俱寂

惟聞鐘磬音

破山寺の後院に題す 常建

清晨 古寺に入り

初日 高林を照らす

曲徑 幽処に通じ

禪房 花木深し

山光 鳥性を悦ばしめ

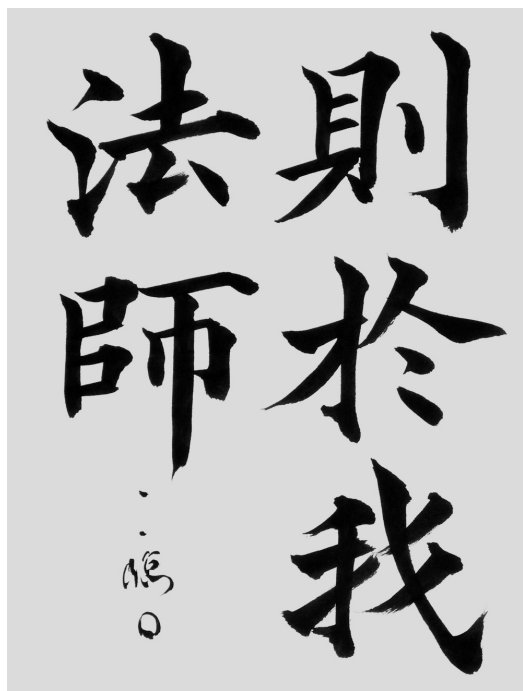
潭影 人心を空しうす

万籟 此に俱に寂たり

惟だ鐘磬の音を聞くのみ

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

7月25日正午必着



すなわ
則ち我が法師に於いて（之を見る。）



雨宮春聲先生臨書

初唐 歐陽通・道因法師碑

歐陽通（生年不詳―六九一）は潭州臨湘（河南省）の生まれで、字は通師。儀鳳四年（六七九）に中書舍人に任命され、出世を重ねて、唐の重臣として仕えたが、皇太子の指名問題で苦言を呈し、謀殺されたと言われている。

彼は初唐の三大家と称される歐陽詢の第四子として生まれたが、幼い時に死別しており、父の手ほどきをあまり受けられなかったようである。しかし、母から父の書法を学んだり、市場に出回った父の書を買ひあさったりして一心に歐書を研究、精進したと言われている。そして、後には父は大歐陽、彼は小歐陽と呼ばれ並び称せらるるほどになったと言った。

現存する彼の書碑は、泉男生墓誌銘とこの道因法師碑である。高さ約3メートル、幅約1.2メートルの巨石で34行、毎行73字から成る。楷法の極則と言われる九成宮醴泉銘などの歐法をしっかり受け継ぎながら、北魏風の書法を取り入れた力強い起筆や終筆、処々に見られる隷書的な跳ね上げなど独自に研鑽を重ねたと考えられる書風に注目したい。

（春濤）

（宋綯）雕圖。則於我法師。而見之矣。法師諱道因。俗姓侯氏。濮陽人也。自繞樞凝祉。紀雲而

（宋は）雕圖に（綯たる可きは）則ち我が法師に於いて之を見る。法師諱は道因、俗姓は侯氏、濮陽の人なり。樞を繞りて祉を凝らし、。



夢與落花飛

(陳文述)

夢ははかなく落花と共に飛ぶ。

△做書参考作品▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



法師 諱は道因、俗姓は侯氏、濮陽の人なり。(枢を)繞りて(祉を凝らし)

7月25日正午必着

教育部毛筆



いずしちとう
伊豆七島

中学一年

雨宮春聲先生書



おんこちしん
温故知新

中学二三年

菅井松雲先生書

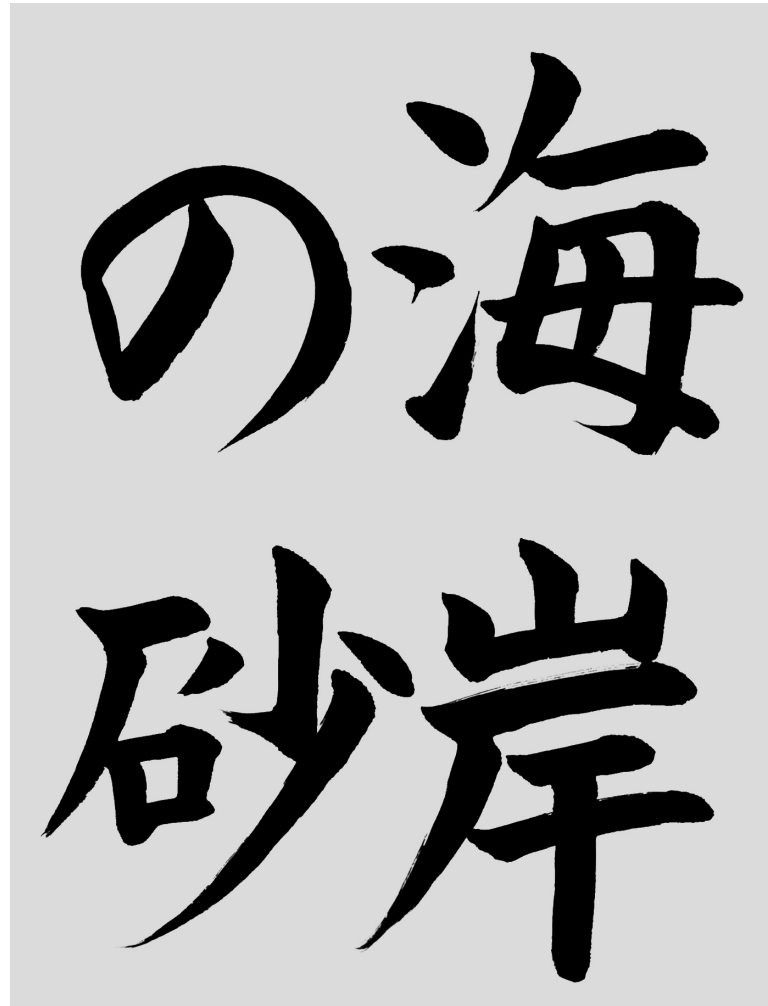
※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



ほし あ
星明かり

小学五年

榎戸春龍先生書



かい がん すな
海岸の砂

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着



う ち ^{みず} 水

小学三年

藤田幸春先生書



^{きん} 金 メ ダ ル

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

い ろ 小学一年・幼年



森戸春濤書

ひ と で 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

入道雲のいさまし
海の上にわき起こる

小学五年

浴びたひまわりの花
真夏の強い日ざしを

小学六年

けられるこの頃です
夏木立の緑濃くカブ

中学

おつかいご思い出されます
七夕月の夜すずか昔が

一般(級位)

君がため惜しからざりし命さへ
長くもがなと思ひけるかな
ふじわらのしたか

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

て	に
	じ
で	は
る	
の	ど
か	う
な	し

幼年

ら	き
を	れ
	い
み	な
つ	
け	貝
た	が

小学一年

が	あ
	り
通	の
り	
ま	行
す	れ
	つ

小学二年

の	か
	ぶ
王	と
さ	虫
ま	は
で	
す	森

小学三年

は	あ
	れ
	が
	世
	界
	一
	周
	を
だ	

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



きなる葉の
 おちつくしたる
 このまより
 見る大そらの
 青のつめたさ
 (尾上柴舟)

松永翠舟先生書